

5ひきの猫ぶろぐ(1)

乃無 太郎

5ひきの猫ぶろぐ（1）

乃無 太郎

参加猫

蔵田家のノエ...♀ 8才 縄張り→屋内外自由

蔵田家のソラ...♀ 1才 縄張り→屋内のみ

居酒屋のクロ...♂ 年齢不詳 縄張り→居酒屋周辺

ネオン街のタマ...♂♀ 年齢不詳 縄張り→ネオン街

住宅街のボス...♂ 年齢不詳 縄張り→住宅街

<初顔合わせ>

今日は大安吉日ということもありまして初顔合わせを行うことにいたしました。私、ノエから簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は生まれてすぐに川土手の草むらに捨てられました。幸いなことに丁度そこへ散歩中の蔵田家の奥様が通り掛り、私の泣き声に気づき助けられました。8年前の初夏のことでした。ソラも1年前に蔵田家の門先に捨てられているのを助けられました。

居酒屋のクロといいます。野良猫ですが、居酒屋の大將が時々餌をくれますもんで、居酒屋の周辺に居ついています。

ネオン街のタマです。よろしく。クロさんは羨ましいですね。ネオン街は生ごみはちゃんとしごみ箱に入れられるので、食事には苦労しています。住みづらい所です。

住宅街のボスといいます。私のところはタマさんのようには食べることには苦労していません。人徳なおばさんがいまして、その方が定期的に食事を運んでくれます。それを取り仕切っているのが私です。

簡単に皆様に自己紹介していただきましたが、ブログを盛り上げるためにこれから皆様のお力をお貸しください。
よろしく申し上げます。

《ぬれぎぬを着せられては黙っているわけにはいかない》住宅街のボス

ボスじゃが、随分迷惑している……

というのもわしらが住んどる地域のゴミの収集は毎週月曜と木曜日じゃ。

そのゴミをわしらがあさっとするというのじゃ。仲間の皆に聞いてみたが、誰もそんなことはしておらんというのじゃ。

嘘はないと思う。前からそのことについてはやかましくいうてある。

そらあ、よそもんが来て、あされば知らんが、わしらの世界には縄張りがあるんで、よそもんが来たらすぐにわかる。

わしらの仲間に飢えとるやつは一匹もおらん。そんな生ゴミをあさらんでも奇特なおばさんがちゃんとうまいペットフードを決まった時間に届けてくれる。

それにしても言いがかりをつけられては気分が悪い。そこで犯人を割り出すために仲間に交代で見張りをつけた。

ところが、ゴミを捨てにきた住民が「ほら、猫が様子をうかがっている」ということになって、余計に我々の分が悪くなった。

犯人探しにはもう少し時間が欲しい。というのは、敵もさる者でゴミあさはり毎回でない。わしらのちょっとした目を盗んでやりよる。

もうちょっと待つて欲しい。

《紺のズボンは猫の毛が目立つ》蔵田家のノエ

もう完全に初夏。ノエはご主人と何時も一緒に寝ていますよ。寒い冬のうちはご主人の布団に潜り込んで、最高！

たまにキズはご主人の寝返り。

ご主人は気を使ってノエの方にはなるべく寝返りをうたないようにしているが、たまにノエの方に寝返りをうって、下敷きになることがある。

ノエが悲鳴をあげると「ごめん、ごめん」といって、反対に寝返る。だが、この季節はその心配がない。暖かくなったのでノエはご主人の椅子の上で寝る。

そのせいで椅子の上はノエの毛だらけ。ところが椅子の布とノエの毛の色が微妙に似ているので、毛が目立たない。

昨日の朝、ご主人が出勤前に紺色のズボンでその椅子に座った。ノエはやばいと思った。立ち上がったご主人のお尻にはノエの毛がいっぱい、紺のズボンだから余計に目立つ。

ご主人が「ノエ、行って来ます」といって頭をなでてくれたが、ノエは心の中で「ごめんなさい」というしかなかった。

はやく、毛を掃除機で吸い取って貰いたいが、もっと毛を付けないと奥様は気づかないだろう。

せっせとご主人の椅子の上で寝ることにしよう。

《監視カメラを設置》住宅街のボス

ゴミあさり犯人、未だ見つからず、とうとう人間様の町内会長が自腹を切って、監視カメラを設置することにした。

われわれもこれには大歓迎じゃ。これで我々猫族の仕業ではないことが判明するわけじゃ。

ただ心配なのは我々の縄張り以外の猫が仕業をした場合、人間様は我々の仲間と見分けがつかない。

そこで皆に厳戒態勢を通達した。犯人が判明するまで、よそ者の猫を絶対に近づけないということ。

みんなはエイエイ ニャォ〜と氣勢をあげた。

《籠城事件》居酒屋のクロ

今夜はこの居酒屋にお客がどんどん入って行く。珍しいこともあるもんじゃ。

そういえば今日は金曜日か、昔はよく花の金曜日といったもんじゃが……

店内がにぎやかになってきたと、居酒屋のクロは独りごちた。

店のテレビで籠城していた男が29時間ぶりに捕まったニュースをやっている。

お客A「警察もこんなに時間をかけるようでは話にならん」

お客B「警官が銃撃されて倒れているのに、5時間も救出出来ないのは常識では考えられん」

お客A「そうじゃ。助かったとはいえ、理解できん」

お客B「SATがきているのに、何もしない。呼んだ意味がない」

お客A「SATというのは、テロ事件や強力な銃器を用いた事件に出動し、急襲して犯人を制圧することを目的として編成された特殊急襲部隊だろう？」

お客B「相当厳しい訓練はしているようだけど、実戦で何もしないんじゃ、絵に描いた餅同然」

お客A「警察はあくまで説得策に徹したというわけか」

お客B「撃たれた警官の救出に5時間も掛けるのではなく、警官が撃たれた時点で一刻も早く急襲作戦をとるべき、一步譲って、5時間後に撃たれた警官の救出の際にS A Tの隊員が撃たれて死亡した。この時点では絶対急襲しなければ……、一連の流れをみていて、警察は完全に腰が引けていた」

お酒が入って話が盛り上がっている。人質（犯人の元妻）は犯人が電話中にトイレに行くと言って、トイレの窓から脱出、無事保護された。その5時間後に犯人は両手にペットボトルとビニール袋を持って投降してきた。その時の警察は犯人に向かって「完全に保護するから両手を高く上げなさい」と拡声器で呼びかける。そして取押さえる。殺人犯をこれほど大事にしなければならないのかね。

居酒屋のクロだと爪の一搔きと小便くらいは掛ける。それでも気はおさまらないが。

そこで犯人の心境はどうだったか、居酒屋のクロの猫の超能力で見てみる。——俺は精神不安定だった。警官が大勢きた時はピークに達した。殺されると思ったので、俺も必死で発砲した。テレビで外の状況はある程度わかった。S A Tがきたというのもテレビで知った。S A Tが踏み込んでくるのを恐れ、警官には玉は100発もっている。来ると撃ちまくるといった。S A Tが負傷して倒れている警官の救助をはじめたとテレビで流れたので、その時は、いよいよ踏み込まれるかと思い、必死で撃った。その時に撃った警官が後で死んだのもテレビで知った。だがこの時にS A Tが踏み込んでこなかったのが以外だった。俺は女房（人質）を殺す気は全然なかった。第一、この発端は女房との復縁が目的だった。正直いうと後半は俺も精神的に大分落ち着いてきていた。だから女房にトイレから脱出された。

女房が脱出したというのはテレビで知った。このときは慌てた。今度こそS A Tが踏み込んでくると覚悟した。それを防ぐため、俺は必死で警官と駆け引きした。テレビの報道が俺には非常に役に立った——

《ゴミ収集日、監視カメラ始動開始》住宅街のボス

今日は月曜日、ゴミ収集日である。監視カメラ始動中。

その夜、監視カメラの録画をみるべく有志の人間様たちが町内会長宅に集まった。

録画の再生。

再生をはじめて二時間、異常なし。

次の瞬間、画面が真っ暗。20秒間続く。

再生が故障したかと思ったら、ゴミ置き場が再び映し出された。

ゴミ袋に異常はない。

画面が真っ黒になったのはどういうわけか……

次の瞬間、一人が叫んだ。

「ゴミ袋が破られてる！」

皆が画面に釘付け。「右端から二番目の袋！」

猫が爪で引っ掻いたように直系15センチ位破られている。

画面が真っ暗になった間に犯行している。

町内会長をはじめ人間様たちは頭を抱えた。

《最近のネオン街》ネオン街のタマ

はじめまして、ネオン街のタマ、通称オカマのタマっていられていますのよ。よろしくネ。皆様、飲みにかかれてますう？都会は景気が良いらしいけど、タマが住んでる地方都市はそうでもないらしいのよ。

よくママさん同士で

「店が暇で困っているのよ。ママさん処はどう？」

「うちも同じ、いつ店を閉めようかと思っているわ」

なんて会話を耳にするのよ。

この前なんかもあるママが社長さんに

「月末の支払いに困っているの。社長、何とかできない？」

なんて懇願していた。そのママを見るとざまなババァだったけど……

一方、流行っている店は流行っているらしいのよ。だから、流行っている店と暇な店と両極端らしいわね。俗に勝ち組み、負け組みっていうの？企業努力といえはそれまでだけど……

それにしてもお店が多すぎ、昔と違って今は内装備品付きの貸しスナックがあるから、小資本ですぐに開店できるらしいのよ。だから最近はパトロンなんて言葉を聞かないもんね。

ネオン街もご多分に漏れず淘汰の時代になってきたんでしょかネ。

タマは猫でよかたわ。それじゃ～、またね。

《因縁の対決》 蔵田家のノエ

蔵田家のノエに心配していたことが起こった。
ノエの左手がツキツキ痛み出し、地に付くことが出来ない。
縄張りが重なりあう宿敵の猫がいて、よくいざこざがある。
その猫と二日前に半年ぶりの決闘をした。夜の11時ごろだった。30分の死闘であった。
ノエのほうから仕掛けることは今までに一度もない。だが、売られた喧嘩は買わないと、縄張りを放棄することになる。
この件は半年前に決着がついていたはずであったが、相手にとってはどうしても欲しいらしい。
縄張り荒しにきた。

この喧嘩の際に頭の毛が束になって数箇所抜けた。やられたのは頭だけかと思っていたが、左手をどうもやられていたらしい。頭は毛が抜けたくらいでどうって事はない。
ノエがこれくらいの負傷だから、相手は相当ダメージを受けていると思う。手応えがあったのは相手の左の二の腕を渾身の力をこめて噛んだ。一度ならず、二度やった。これで相手の戦闘力が格段に下がったのを感じた。これで勝負ありと確信した。
相手はノエより一回り大きく、年は定かではないが、若いのは確かである。これまで、ノエは自慢のフットワークで勝ってきた。それにしても往年のフットワークに陰りが出てきた感はいがめない。それもそのはずだ。今月の誕生日で10才になった。人間にしてみれば、50才半ばの歳になる。

蔵田家で一緒に住んでいるソラは屋外には一歩も出ないから、後継者にはなれない。いつまでこの縄張りを守れるかノエにとっては心配の種である。

《ソラが生ゴミ荒しの現場を目撃》 蔵田家のソラ

昨日はゴミの収集日だったが、正午になってもまだ収集にきていなかった。

ソラは部屋から窓ガラス越しに、今日はとりに来るのが遅いなあとゴミ置き場を眺めていると、真っ黒い大きな鳥が二羽飛んできた。

一羽が電柱に取り付けている監視カメラにとまった。もう一羽がゴミ袋めがけて急降下、次の瞬間、足で引っ搔いて破ったかと思うと、餌をあさるでもなく飛び立っていった。それを見届けて、監視カメラに止まっていた鳥も飛び立った。

ソラにとってはじめて見る光景であった。このことをノエ姉さんにいうと、その鳥はカラスで非常にずる賢い。本来、ソラの姿が見えていたらこんな行動はとらなかったろうが、このときは多分、窓ガラスに光線が反射して、ソラが見えなかったのではないかといっていた。

先日の人間様達が再生中に画面が真っ黒になったのは監視カメラに止まったカラスが羽でレンズを覆ったことが原因であることがわかった。

それにカラスの仕業はどうも餌が目的ではなく、あくまで猫の仕業に見せるように引っ搔き破っていると、ノエ姉さんはカラスの魂胆を推測した。

《女医さんはやぶ医者だった》蔵田家のノエ

以前にノエの左前足が痛くて地につけられなくなったこと話したよね。

丁度一週間前にご主人がノエを病院に連れて行ってくれたの。

若い女医さんだったの。

ご主人が「二日前に喧嘩をした」というと、女医さんは「原因は喧嘩か交通事故でしょう」といってノエは診察台に載せられた。ノエは凶暴につき、ご主人が洗濯網に入れてきたが、看護師さんがノエを洗濯網から出して、両首のところを手で抑え、腕でノエを挟んだ。

ご主人が「この猫は凶暴ですから気をつけてくださいよ」と看護師さんに注意していた。

今日はノエは機嫌が良かったのでおとなしくしていた。ご主人も今日はおとなしいと感心していた。

女医さんがノエの左足の付根の毛を分けて看だした。ご主人が「足首のところだと思いますが」というと、看護師が「順番に診ていきますから！」という。この看護師は怖いなあとノエは思った。

女医さんが足の付根の少し下のところでカサブタを発見、ご主人に確認をさしているが、カサブタがあまりにも小さくてご主人は確認できなかった。

「喧嘩の時のキズで化膿している可能性がありますね」といいながら、他にもカサブタがないか女医さんはノエの足の毛を分けて探している。

女医さんがノエの足首を握った瞬間、ノエが暴れた。喧嘩をする時の声を出しながら、看護師の手中から飛び出し、診察台から飛び降り診察室の隅に潜んだ。周りはノエの毛が飛び散っている。こうなればご主人も手の施しようがない。

看護師が捕獲網を取ってきますとって診察室を出て行った。

女医さんが「飛び降りた時に左足を着いたから折れてはいませんね。化膿止めの飲み薬を出しておきましょう」といっている。ノエの飛び降りる瞬間を見逃さなかったのは、さすが女医さん。その会話を聞きながら、ノエはご主人の方に少し歩み寄った。その時、上から洗濯網をご主人にかけられた。御用である。そこへ看護師が帰ってきて、さすがご主人ですねとえらく感心していた。

ご主人が指摘していた通り、ノエの怪我は足首のところの捻挫である。原因は高い塀から飛び降りた際に小石を踏んで捻挫した。それはノエが一番わかっている。この女医さんはやぶ医者である。

ノエも最初は喧嘩の際の怪我が原因かなと思ったがそうではなかった。一週間経ってノエもやっと左足を使うことが出来た。今日は爪研ぎもした。

蔵田家の家族皆がノエの歩き振りを見て喜んでくれていた。

《久しぶりの集まり》

ネオン街のタマ 「あら～皆さんお集まりね」

住宅街のボス 「タマちゃん、久しぶりだが元気だったかね」

ネオン街のタマ 「元気よ、ああそうそう、ボス、犯人判ったらしいじゃないの」

住宅街のボス 「ゴミ荒しの犯人かい？カラスのやることは手がこんでるよ」

蔵田家のノエ 「本当に感心しちゃうよ。一羽が監視カメラのレンズを隠して、その間にもう一羽がいたずら」

ネオン街のタマ 「へえ、すごく知恵が回っているのね。わたしもそんな知恵がほしいわ」

居酒屋のクロ 「タマちゃん、感心している場合じゃない。カラスは我々に濡れ衣を着せようとしていたんだ」

蔵田家のノエ 「腹黒いったらありゃ知れない」

ネオン街のタマ 「へえ、カラスは腹まで黒いのね。まあ素敵！」

蔵田家のノエ 「何よ、タマちゃん、関心している場合じゃないでしょ」

住宅街のボス 「犯人は判ったが、問題は濡れ衣をどう晴らすかじゃ」

ネオン街のタマ 「犯人が判ったから、いいじゃないの？」

住宅街のボス 「われわれは判ったが、人間どもは判っていない。肝心の監視カメラには写っていなかった。まだわれわれ猫の仕業と思っている」

ネオン街のタマ 「なるほど、そういうことね。問題は人間様に知らせる方法なのよね。それは簡単よ」

住宅街のボス 「タマちゃん、いい方法があるのかい？」

ネオン街のタマ 「いや、今はないけど一晩寝て考えてくるわ。じゃあ、またね」

居酒屋のクロ 「タマちゃんの頭ではダメだ。期待しないほうがいい」

ということで、本日はこの辺でお開きといたします。次回をお楽しみに……

《円形脱毛症》ネオン街のタマ

あら、皆さんお元気してる？

タマも元気はしているけど、この前の集会で安受けあいしちゃって、馬鹿なタマにしては大変な重荷になって、円形脱毛症になったわよ。

それというのも、ゴミあさりの犯人はわかったけど、カラスの仕業というのをどういう手段で人間様に知らせるかということなのよ。

難しいでしょう。何か良い知恵ないかしら……猫から人間に伝達する方法、言葉が通じないって本当に不便ね。人間界なら通訳という手もあるけど、猫と人間の間に通訳者はいないし、本当に困っているの。

でもね、ただひとつタマのない頭で考えていることがあるの。

それというのはね、ごみ収集日に収集場所にカラスの羽を落としておくという手なの。

どう？このアイデア、なかなかいいとおもわない？タマにとっては上出来だと思うけどいかがかしら？

《タマちゃんのすばらしい案》住宅街のボス

「前回問題になったカラスの仕業を人間様に知らせる方法について、タマちゃんにその良い案を考えていただくということになっていましたが、予想に反してとってはタマちゃんに失礼だが、素晴らしい案を考えてきてくれました。内容はカラスの羽をゴミ袋のそばに置くという案です。

そこで皆さんにご協力をおねがいしたいということでお集まりいただいたわけじゃ。

蔵田家のノエさんが珍しく遅刻をしていますが、ここに来る時によってみましたが爆睡しておりました。お疲れのご様子で起すのも可愛そうで、そのままにしてみました。

今日の内容については後でノエさんには私から連絡します。

皆さんにお願いしたいのはカラスの羽を拾ってきていただきたい。枚数は3枚、3枚集まったところで打ち切ります。

それでは皆さん、がんばって下さい。

最後はない知恵を絞っていただいたタマちゃんに拍手をお願いします」

こうしていよいよ皆で協力してカラスの羽を集める作業が始まった。

《暗礁に乗り上げる》

カラスの羽集めが始まってはや10日が経つのにまだ一枚も集まっていない。思ったよりカラスの羽は落ちていない。

ネオン街のタマの妙案も暗礁に乗り上げた。

住宅街のボス

「鳩の羽は良く落ちているのを見かける。そこでわしの提案じゃが、邪道といわれるかも知れぬが、最悪の場合には鳩の羽を使ってはどうかとおもうのじゃが……」

ネオン街のタマ

「じゃあ、ゴミ荒しの犯人は鳩のせいにするというの？」

住宅街のボス

「そうじゃないんじゃ、鳩の羽を墨で染めてカラスの羽にカモフラージュするのじゃ」

居酒屋のクロ

「それじゃと、少し小さくはないかね。人間どもはカラスの羽と判断するだろうか」

住宅街のボス

「問題はそこじゃ、鳩の羽ばかりだと無理があると思うのじゃ。そこで一枚はどうしても本物のカラスの羽がほしいのじゃ」

ネオン街のタマ

「じゃあ、時間がかかってもどうしても一枚は探さなければいけないのよね。カラスが羽を落としてくれないかしら。それはカラスの勝手でしょなんて」

住宅街のボス

「タマちゃん、もともとはあんたのアイディアじゃ、その調子でもうひとひねりしてくれぬか」

ネオン街のタマ

「ボス、もう口車にはのらないわよ。やっと円形脱毛症が治ったんだから……タマちゃんは何も考えない」

蔵田家のノエ

「こうなれば少し冒険だけど、カラスの棲家である鎮守の森まで行くしかないのかも……」

だが鎮守の森までは5箇所の縄張りを通らなければならない。そのうちの二箇所は相当手ごわい縄張りで、無事に通過できる保証はない。

《鎮守の森行き諦める》

鎮守の森に行くのに避けては通れない難所、二番目と4番目の縄張り域がある。この二箇所の偵察に俊足ナンバーワンの若者と機転の利く若者二人に行ってきてもらった。

その報告によると二番目の縄張り域は何時も3匹で縄張りを監視している。ということはこの域は数で解決出来る。問題は4番目の縄張り域である。聞き込み調査によると手のつけられないどう猛な「地獄のサブ」という大ボスがいる。この「地獄のサブ」にかかると生きてはこの縄張りからは出られない。よそ者の猫とわかるとすぐに「地獄のサブ」に通報される。この域の猫は「地獄のサブ」に絶対服従。数の論理でも勝負にならない。一大事となると瞬時に10匹は集まる。

この報告を聞いて皆は頭を抱えた。そこまで危険を冒してまでカラスの羽を取りに行つて、ゴミ荒しの汚名を晴らす必要があるのか。

ネオン街のタマ

「私思うのに、この計画は反対。命まで賭ける価値はないわ。人間どもがゴミ荒しを猫の仕業と思っているのなら、勝手に思わしとけばいいのよ」

住宅街のボス

「タマちゃん、住宅街の連中は平穩に暮らすにはそういうわけにもいかない」

ネオン街のタマ

「それなら一つだけ提案があるわ。私の仲間に通称『招き猫』というおばあさんがいるの。この猫は超能力の持ち主で、その猫に会うとその晩はお店が忙しくなるらしいのよ。だからお店のママさん連中は『招き猫』と呼んでいるのよ。だから私思うのに、このおばあさんに頼んでカラスの羽を招いてもらったらどうかしら」

ということで皆は半信半疑だが、タマちゃんに「招き猫」のおばあさんが引き受けてくれるかどうか打診してもらうことにした。

《『招き猫』のおばあさんに会う》ネオン街のタマ

あら、また安請け合いしてしまった。もう、あたしって、自分で言うのもなんだけど、馬鹿が付くほど人が良いから。

でも『招き猫』のおばあさんに会うのは簡単。彼女はいつも屋台のそばで一人ぽつんと座っているから。

ほら、今夜も定席に一人座っている。

「おばあさん、こんばんは、おひさしぶりです」

「なにいつているのよ。昨夜もここで会ったじゃないの」

「あれ、そうだったっけ。最近忙しくて、何がなんだかわからなくて。まあ、それはよいとして、おばあさんにたつてのお願いがあるの。実はね、カラスの羽が欲しいんだけど、なかなか見つからなくて。それで鎮守の森に探しにいこうと計画したけど、遠いし、途中「地獄のサブ」の縄張りを通っていかなければならないでしょう。それで計画を断念したの。でもカラスの羽はどうしても必要なの。そこで皆の意見として、「招き猫」のおばあさんにカラスの羽を招いてもらおうということになったのよ」

「あたしはそんな器用なことにはできないよ」

「だって、おばあさんを撫でると商売繁盛するっていうじゃないの」

「それはあるかもしれないが、カラスの羽を招き寄せる念力は持ち合わせていなよ」

「そんな冷たいことをいわずに、おばあさん、何とかお願いしますよ」

「羽は招き寄せれないがね。必ずカラスの羽があるところを教えてあげよう。鎮守の森は東の方角じゃが、丁度反対の西方角に杉林がある、俗にカラスの森という。距離は鎮守の森の半分じゃ。そこにいくと必ずカラスの羽が見つかる」

「道中に『地獄のサブ』のような縄張りはありませんか？」

「うん、凶暴な縄張りはない。もし、いざこざになるようなことがあれば、オン、ニャーニャー、ソワカと唱えるがよい。万事うまくいくから心配はいらん」

「おばあさん、よいことを教えていただいたわ。感謝します」

タマは心の中でオン、ニャーニャー、ソワカと反芻しながら小躍りして帰っていった。

《カラスの森へカラスの羽探し》住宅街のボス

住宅街のボスは若い衆四匹を携えて『招き猫』のおばあさんに教えてもらった『カラスの森』にカラスの羽探しに出かけることにした。

初めての遠出ということで皆は緊張気味である。丁度半分くらい来たとき、一匹の大きな、いかにも強そうな猫が監視している。

住宅街のボスが皆に『招き猫』のおばあさんに教わった呪文を唱えるように指示した。

皆が一斉に

オン ニャーニャー ソワカ オン ニャーニャー ソワカ オン ニャーニャー ソワカ

と唱えながら監視猫の前を通る。すると監視猫はなんと優しく住宅街のボス達を優しく見送ってくれる。

この呪文の効果に皆は目を合わせて感心した。

それからは『カラスの森』までは皆、遠足気分である。そしてあっという間に目的地に着いた。

「さあ、皆、四方に別れてカラスの羽探しじゃ。見つけたものはこの場所に戻ってくることに。各自一枚でよい」

住宅街のボスは皆の帰りを待つことにした。ところがものの3分もしないうちに皆がカラスの羽を一枚ずつ拾って来た。

「招き猫のおばあさんはすごい。本当だった」

と、皆、感心する。そして皆で雄叫びを上げた。

拾ったカラスの羽を各自、口に咥えて、ボスだけは縄張りの番猫に遭遇した時に オン ニャーニャー ソワカ と呪文を唱えなければならないので、羽は咥えずに来た道を意気揚揚と帰ることにした。

帰る途中、来るときに出会った監視猫がやはり同じところにいる。住宅街のボスはもう慣れたもので オン ニャーニャー ソワカ と呪文を唱え始めた。後の4匹はカラスの羽を落とさぬようにしっかりと咥えてボスの後に続く。行きと同じで襲ってくる気配はない。というより、我々をあたたかく見送ってるようにも感じられた。

それはともかくとして目的を果たし、無事帰りついた。

いよいよ今度のゴミ収集日に計画を実行に移すのみである。